

埼玉県立近代美術館



「アーティスト・プロジェクト#2.0」は、埼玉県立近代美術館が、2016年度に開始した新しいプログラムです。2003年に MOMAS コレクション（収藏品展）の枠内で立ち上げた、収蔵作家による「アーティスト・プロジェクト」を、コレクションから独立した企画へと発展させ、収蔵作家という制約にとらわれず、活躍中のアーティストを選出します。

2020年度「アーティスト・プロジェクト#2.05」に迎えるのは、近年活躍の幅を広げる美術家・スク립カリエウ落合安奈。作家にとって公立美術館での初個展となる本展では、異なりながらも重なり合う文化や、人々の帰属意識、分断と邂逅を生む海をテーマとする3つのインスタレーションを展示し、土地と人との結びつきや鎖国と国際結婚について考察を巡らせます。作家による最新のリサーチの成果を反映した新作映像を含む一連の作品は、世界が未知の境遇に直面する中で、「越境する祝福」の可能性を問う試みです。

アーティスト・プロジェクト#2.05 スクリプカリエウ落合安奈

「Blessing beyond the borders – 越境する祝福 –」

会期	2020年10月24日（土） - 2021年2月7日（日）
休館日	月曜日（ただし11月23日、1月11日は開館）、および12月28日（月） - 1月5日（火）
開館時間	10:00～17:30（展示室への入場は17:00まで）
会場	1階展示室ほか
出品作品	インスタレーション、映像、写真
観覧料	MOMAS コレクション観覧料が必要です：一般200円（120円）、大高生100円（60円） *（ ）内は20名以上の団体料金。*中学生以下と障害者手帳をご提示の方（付き添い1名を含む）はいずれも無料です。*MOMAS コレクションもご覧になれます。*企画展観覧券をお持ちの方は、MOMAS コレクション・本展とあわせてご覧になれます（各企画展会期中のみ）。
主催	埼玉県立近代美術館
協力	J R東日本大宮支社

■ 作家プロフィール

スクリプカリアウ^{おちあいな}落合安奈 Ana Scripucariu-Ochiai

美術家。1992年埼玉県生まれ。東京藝術大学油画専攻を首席、美術学部総代で卒業。同大学大学院グローバルアートプラクティス専攻修了。現在は同大学大学院彫刻専攻博士課程に在籍しながら国内外で作品を発表。日本とルーマニアの二つの母国に根を下ろす方法の模索をきっかけに、「土地と人の結びつき」というテーマを持つ。国内外各地で土着の祭や民間信仰などの文化人類学的なフィールドワークを重ね、近年はその延長線として霊長類学の分野にも取り組みながら、インスタレーション、写真、映像、絵画などマルチメディアな作品を制作。「時間や距離、土地や民族を超えて物事が触れ合い、地続きになる瞬間」を紡ぐ。

| 主な近年の展覧会 |

2020年 個展「Imagine opposite shore - 対岸を想う」銀座蔦屋書店・GINZA SIX | 東京

2019年 個展「骨を、うめる／one's final home」nap gallery | 東京

2019年 個展「mirrors」Bambinart Gallery | 東京

2019年 「Bridge」ホイアン（世界遺産）| ベトナム

2019年 都美セレクトショングループ展「星座を想像するように - 過去、現在、未来」東京都美術館 | 東京

2018年 「Ascending Art Annual Vol.2 まつり、まつる」SPIRAL | 東京・京都巡回

■ 作家コメント アーティスト・プロジェクト#2.05 について

本展全体に対する「越境する祝福」というタイトルは、出品作でもある「Blessing beyond the borders」（2019年制作）から名付けている。この大型インスタレーション作品では、過去に鎖国状態を経験した日本とルーマニアという遠く離れた二つの国の、土着の祭りや風習の映し出す形式が、二重螺旋状に空間に浮かび上がる。そしてそれらは、触れ合わずとも重なり合いながら旋回を続け、新しい光景を描き出す。また、作品空間に響き渡るこれまで訪れた土地の音に、今回の展覧会に合わせて、会場であり作者の出身地でもある埼玉県の土地の音を新たに組み込む。

もう一つの出品作の「骨を、うめる - one's final home」（2019年制作）では、「土地と人の結びつき」というテーマから発展した「人はどこに自分の骨をうめるのか」という問いから、人々の中に眠る「帰属意識」に焦点を当てている。2019年ベトナムにて、江戸時代に鎖国政策に翻弄されながら異国の地で永い眠りについた、ある一人の日本人の墓と出会った。墓は、日本の方角の北東10度に向けて建てられている。また墓の主は、鎖国政策によりベトナムのフィアンセとの仲を引き裂かれたものの、海を越えて会いに行く姿が言い伝えとして残されている。一つの墓の存在から、国策や、時に人々を隔てる国という境界を越えていく個人の想いについて考えさせられる。また本展では、墓の主の生まれた土地とされる長崎県で行った、国際結婚の歴史調査に基づく新作の発表も予定している。

この二つのインスタレーション作品に象徴される、「鎖国と国際結婚」から見えてくる、隔たりを生むものと、逆にそれを越えてゆくものが、今回の展覧会の重要なテーマとなっている。そしてこのテーマから、「越境する祝福」の姿を探る最中に、COVID-19によるパンデミックが発生した。それと同時に、過去の出来事として

向き合っていた「鎖国」が、現実のものとして起こることとなる。

現在進行形の世界的な鎖国状態の中で、改めて対岸を想うことを問う作品として、2015年から世界各地の海辺で展開しているシリーズの「The backside over there」を展示する。海の写真を貼りこんだ壁状のこの作品では、海の持つ人々の移動を「阻む」側面と、潮流や浜への打ち上げによって出会うはずのなかったものを「つなぐ」という両面性を表している。鑑賞者が壁の前で写真を撮ると、実際に遠い土地の海辺で撮られた景色と同じ所に立っているように、空間的差異を越えてイメージ上でつながるような経験が生まれる。

本展も会期延期を余儀なくされた中で、今の状況から見えてくる「越境する祝福」とは何なのだろう。目に見えない恐怖から、差別や、社会的・国際的な貧富の差による問題など、壁を形成する動きや分断を招くものが、これまで以上に目に見える形で現れている。いま、改めて立ち止まって考えるべき時が来ている。一生に一度あるかどうかという世界的な困難を乗り越えようとする現在において、そうした問題に時間をかけて向き合っていくことの中に、人々が国やコミュニティー間に起こる摩擦や利害関係を越えて同じ喜びを分かち合うことができる、「越境する祝福」が訪れる可能性があるのではないだろうか。

■ 関連イベント

実施を調整中です。当館 HP にて追ってご案内いたします。

<https://pref.spec.ed.jp/momas/artistproject205>

■ 会場・交通案内

埼玉県立近代美術館 〒330-0061 さいたま市浦和区常盤 9-30-1

電話 048-824-0111 <https://pref.spec.ed.jp/momas/>

JR 京浜東北線北浦和駅西口より徒歩 3 分（北浦和公園内）。

JR 東京駅、新宿駅から北浦和駅まで、それぞれ約 35 分。

当館に専用駐車場はありませんが、提携駐車場「三井のリパーク 埼玉県立近代美術館東」では駐車料金の割引があります（企画展観覧で 300 円引き、MOMAS コレクション観覧で 100 円引き）。

団体バスは事前にご相談ください。

お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたします。ただし台数に限りがありますので、予めご了承ください。

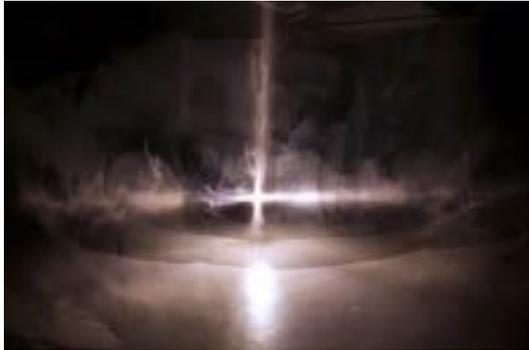
■ お問い合わせ

埼玉県立近代美術館 展覧会担当：五味 広報担当：真中

電話 048-824-0111（代表）／048-824-0110（学芸部） FAX048-824-0118

■ 広報用画像

- ・ 画像はデータにて提供いたします。kouhou@aria.ocn.ne.jp(広報担当 真中)へリクエストしてください。
- ・ 画像を掲載する場合、作品キャプションを明記し、トリミング、文字載せ等をご遠慮ください。
- ・ 掲載誌を1部、広報担当までお送りください。



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14

作品キャプション

- 1-7 スクリプカリウ落合安奈 《Blessing beyond the borders (部分)》 各地で信仰や神事を捉えた写真群,
サウンド, ライト | サイズ可変 | 2019年
- 8-10 スクリプカリウ落合安奈 《骨を、うめる (部分)》 カーテン, ベトナムの古い椅子, 映像, サウンド, 風
| サイズ可変 | 2019年
- 11 スクリプカリウ落合安奈 《骨を、うめる (部分)》 素材: モーター, アクリル, 芯棒, ライト | ϕ 30cm
| 2019年
- 12-14 スクリプカリウ落合安奈 《Project: The backside over there》 写真, 木 | サイズ可変 | 2015年-